

アスワン・フォーラム
中谷外務大臣政務官ステートメント
和文骨子

1. 冒頭

- 日本政府の代表として当アスワン・フォーラムにおいて発言の機会を頂き、エルシー・エジプト大統領、エジプト政府、紛争解決・平和維持・平和構築のためのカイロ地域センター(CCCPA)に感謝。
- 12月10日夜に発生したニジェール軍駐屯地への攻撃により亡くなられた方々及びご遺族の方々に心から哀悼の意を表する。このような暴力はいかなる理由でも正当化できないものであり、断固として非難する。
- 自分は政治家になる以前は陸上自衛官として勤務し、平和と安定の重要性を認識。エジプト訪問に先立って、チュニジアとセネガルを訪問し、アフリカ大陸が直面している課題について議論。

2. TICAD7

- 2019年8月、アフリカ連合(AU)議長国であるエジプトとの共同議長の下、横浜でTICAD7を開催。TICAD7では、経済、社会、平和と安定の3つの柱に着目。
- 本セッションのテーマは、TICADが掲げるアフリカ諸国のオーナーシップ及び国際社会によるパートナーシップ重視の方針と合致。

3. NAPSA等

- TICAD7において、安倍総理は「アフリカの平和と安定に向けた新たなアプローチ」(NAPSA)を提唱。NAPSAの軸である二つの原則は、アフリカ主導の紛争予防及び調停の重視と紛争の根本原因への着目。
- 二つの原則に基づき、日本は、①アフリカ連合(AU)や地域経済共同体(RECs)等のアフリカ主導の紛争予防・調停支援、及び国連三角パートナーシップ・プロジェクトの枠組みを通じたアフリカのPKO活動への支援の継続、②制度構築・ガバナンス強化支援、③地域社会の強靱化と若者の過激化防止に向けた支援を実施していく考え。

●日本は、以下の取組を実施。

- ・ アフリカ15か国におけるPKO訓練センター支援。
- ・ シナイ半島において、エジプトとイスラエルの停戦監視活動をする多国籍部隊・監視団(MFO)の司令部への自衛官派遣。
- ・ ジブチを拠点とした自衛隊によるソマリア沖・アデン湾での海賊対処活動。
- ・ 政府間開発機構(IGAD)及び国連との協力を通じた南スーダンの和平プロセス支援及び国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)への要員派遣。
- ・ ソマリアの社会秩序維持に向けた、ソマリア警察と国境管理の支援。
- ・ AU平和基金を通じた中央アフリカ共和国の「平和と和解のアフリカ・イニシアティブ」支援。

●これらの取組は、アフリカの平和と安定だけでなく、AUの「アジェンダ2063」の旗艦事業である「2020年までの紛争終結(STG)」にも貢献。

4. 人材開発

●日本は、アフリカの人材開発分野においてもイニシアチブを発揮。エジプトでは、例えば以下の取組を実施。

- ・ エジプト日本科学技術大学(E-JUST)を通じた高等教育支援。
- ・ エジプトの学校(エジプト・日本学校(EJS))における「トッカツ(特別活動)」(注)導入。

(注)学校での掃除、日直、学級会等を通じて、子どもたちの協調性、責任感、思いやりの心を育む活動。

5. 法の支配の重要性

●本フォーラムを通じ、アフリカと国際社会との間の法の支配に基づくパートナーシップが促進されることを期待。

●法の支配は、航行の自由及び自由貿易と並び、国際秩序を守るための基本原則。我々は、法の支配を東シナ海及び南シナ海を含む世界の全ての海洋において遵守しなければならない。いかなる一方的な現状変更の試みや他国に対する威圧は認められない。

6. 結び

●アスワン・フォーラムの更なる発展を期待。日本は、アスワン・フォーラムにおける戦略的パートナーとして、アフリカとの協力に向けた努力を惜しまない。

(了)